

2022年3月20日（日）／説教者：仲本貴子

説教：「ヒゼキヤのトンネル」

聖書：歴代誌下32：1～8

1 21世紀はテロで始まり、天災、地球環境破壊、感染症と続き、世の終わりのような状況でありながら、一方で最先端の科学技術と豊かさを享受してもいます。そして、ロシアのウクライナ侵攻で、世界第三次大戦、核戦争の脅威も現実として迫り、私たちは一寸先は闇の中に置かれています。すべての人が生きる世界を求めつつも、どこへ向かい、なにをすればいいのかわからず、希望すら見失いそうになり、悪の力の恐ろしい強さの前で、人間の知恵は尽きはてようとしています。

2 ヒゼキヤ王は、紀元前716年ごろから29年間南ユダを治めた、主に従う敬虔で勇気ある善王です。当時北イスラエルはアッシリアに滅ぼされ、南ユダも風前の灯でしたが、ヒゼキヤは主に立ち帰り、神殿から偶像を撤去し、民の心を一つにして、アッシリアに服従しませんでした。アッシリアはエルサレムを包囲し、兵糧攻めとヘイトスピーチで民を揺すぶります。ヒゼキヤ王は、防衛に徹し、挑発に乗るなど民を教え、一方で城外のギホンの泉からサレム市内へトンネルを掘り、水源を確保します。アッシリアからイスラエルの神を汚す言葉をつづった手紙を受け取ったヒゼキヤ王は、主の前に手紙を広げ祈ります。祈りは聞かれ、主の使いが一晩で18万5千人を打ち、アッシリアは退散します(Ⅱ列王19:35-36、Ⅱ歴代32:20-22、イザヤ37:36-38)。

3 ヒゼキヤ王は、民の命をつなぐために、エルサレムの地下の固い岩盤をくり抜き、トンネルを掘りました(Ⅱ列王20:20、イザヤ22:9-11)。トンネルは、1880年シロアムの池の発掘調査により発見され、聖書記事の事実が証しされました。ヒゼキヤのトンネルは、ギホンの泉側からと、シロアムの池の側からと、互いに反対側から掘り進む音を聞いて、進行方向を確認して進んだのです。この出来事は、私たちの沖縄の置かれている状況とも、今の世界の状況とも重なります。強大な悪の力が支配し、心も日々の暮らしも脅かし、私たちは出口の見えない闇の中にいます。しかし、ヒゼキヤが生きるための水を求めてトンネルを掘ったように、私たちも命を与える主を信じて、自分たちのできることを求めて力を集めます。その時、私たちの思いだけでは、方角を見失います。神のことばに耳を澄ますとき、反対側から掘り進んでくる神の手が岩盤を突き崩す音が聞こえてきます。神のことばを信じ、揺るがされず、主の声を聴きながら闇を掘り進んでいきたいものです。必ず、向こう側からの光が差し込みます。(仲本貴子)